

令和4年度「蔵前小学校 授業改善推進プラン」

調査概要【全国学力・学習状況調査】  
 調査対象 台東区蔵前小学校 第6学年  
 実施日 令和4年4月19日  
 実施教科 第6学年 国語

第6学年 国語

1 結果の分析

(1)結果の概要

○全体的な状況の説明

◇評価の観点から

「知識・技能」は、全国及び都平均よりも高い数値となっている。「思考・判断・表現」は、全国及び都平均より、若干高い数値となっている。

◇正答数分布グラフから

正答数分布グラフでは、平均正答率が72%となっている。特に、中央値11を超えている児童が全体の60.2%を占めている。

分類	区分	平均正答率(%)		
		本校	都	全国
評価の観点	知識・技能	79.3	72.0	70.5
	思考・判断・表現	66.5	66.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			

(2)結果から明らかになった課題

国語	個別の状況(課題)	解決すべき課題
	○知識・技能 ・話し合いの様子の一部で、発言の理由として適切なものを選択することにおいて、正答率が83.7%であり、全国、都の正答率を下回っている。 ○思考・判断・表現 ・話し合いの様子の一部で、必要なことを質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択することにおいて、正答率が80.6%であり、全国、都の正答率を下回っている。	→話し言葉と書き言葉との違いを理解すること。  →必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えること。

2 改善策

(1)具体的な改善策

国語	○知識・技能 ・文や文章を読みやすいものにするための漢字と仮名の使い分けや送り仮名、仮名遣いについて、書く言語活動を通じて理解し適切に使うことができるようにする。
	○思考・判断・表現 ・登場人物の相互関係について、言葉に着目させながら叙述や描写を基に捉えることができるようにする。 ・主語、述語を意識しながら書く活動を、国語科のみならず、各教科等に意図的、計画的に設定する。

(2)改善策(手だて)に対する検証

○文章の記述後は、個人での読み直しや相互確認をする。漢字の定着については、ミニテストを單元ごとに行い、正答率90%を指標として確認する。

○授業の中でのノート記述、発言の内容を確認する。また單元テストを行い、正答率85%を指標として確認する。